

仮設入居者のための農園始動

石巻NOTE 畑作業と販売で意欲向上 心の復興事業

石巻市などで若年層の就労・就学支援を展開するNPO法人 Switch (高橋由佳理事長) が、市内の畑を活用した仮設住宅居住者のための農園「イシノマキ・ファーム&マルシェ」をスタートさせた。農作業や収穫物の販売を通して参加者のやりがいを創出し、就労意欲の向上や心の復興につなげていく。

中間的就労の場に

事業は同法人が設置するユースサポートカレッジ石巻NOTEの同市銚銭場Ⅱが運営。復興庁の採択を受けた「心の復興」事業の一つで、「中間的就労の場」と「心の復興」を柱とした。5月下旬から試験的に実施し、7月下旬から本格的に運用を開始。畑は同市東福田の約10㍏を活用した。

農作業は今年20日にも行われ、市内の仮設住宅に暮らす男女2人が参加。この日はカボチャやナス、トマトなどの夏野菜が育つ畑の

雑草取りに汗を流した。また、翌21日には石巻NOTEの事務所付近の駐車場で収穫物の販売も実施。自然農法で育てられた新鮮な野菜を通りかかった住

民にアピールした。再就職への足掛かりとして参加したという仮設大橋中央団地の男性(46)は「自然を相手に体を動かしている」と心が晴れやかになる。また、仮設向陽団地に暮らす40代女性も「仮設暮らしは不安ばかり。就職がうまく

いかず自信をなくして動き出すこともできなくなっていた時に、知人の紹介で参加した」と語り、「ここで新たな人間関係を作り、物事が良い方向に進むきっかけになれば」と期待した。畑は現在、敷地面積の3分の1程度の活用に留まっており、事業の浸透とともに拡大していく考え。また、収穫物についても、マルシェでの販売のほか、市内の飲食店などへの



農作業を通して、参加者が就労への再出発を模索している

流通も協議中だ。石巻NOTEの高坂岳詩さん(30)は「参加者の増加とともにノウハウを蓄積し、皆が気軽に農業に参加できる地域交流の場としていきたい」と展望している。

参加者は随時募集している。対象は石巻地方で就労・就学を志す若年者と、仮設住宅入居者。農作業は毎週木曜日で、マルシェは収穫に応じた定期的開催とする。

それぞれ定員には限りがあり、いずれの作業も日当が支払われる。申込み、問合せは高坂さん(825-5374)まで。